

第1学年 国語科学習指導案

- 1 日時 令和2年9月10日(木) 3時間目
- 2 学年組 第1学年A組(男子13名・女子13名 計26名)
- 3 単元名 「かいがら」
- 4 目標
 - ◎自分の経験や友達の経験を話したり聞いたりして登場人物の気持ちを想像する。
 - 登場人物の行動を読み取り、その時の気持ちを考え想像する。
 - 登場人物になりきり文章を読む。
 - 相手の立場に立って考える思いやりの大切さや友達を思う優しさに共感しながら読む。

5 児童観

1年A組の児童は、自分の意見をはっきりと言え、自分の気持ちを感情に出し、相手に伝えることや感謝の気持ちを伝えることができている。

一学期では、50音の文字をすべて学習し終わり、「おおきなかぶ」では劇をして登場人物の行動を読んだ。「あるけあるけ」「おおきなあれ」の詩を勉強して語のまとまりや言葉の響き、場面の様子など、内容のだいたいを捉えることが出来るようになってきている。

6 教材観

本単元は、「自分の経験や友達の経験をしたり、聞いたりして登場人物の気持ちを想像する」ことを主な目標とし、くまのこが、海辺から持ち帰った貝殻をなかよしのうさぎのこに見せ、自分にとっても一番のお気に入りであった貝殻を、一晩悩んだ末にプレゼントするという心温まる物語である。くまのこの行動が中心に書かれていて、話の展開を捉えやすい。また、くまのことうさぎのこの会話は、短いながらも気持ちを豊かに表現していて、児童の共感を呼ぶだろう。友達との関係に深まりが見られ始めるこの時期、相手の立場に立って考える思いやりの大切さや、友達を思う優しさに共感しながら考え、読むことが出来る教材である。

7 指導観

本単元は、小学校学習指導要領国語の第1学年及び第2学年「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を取り上げて指導する。挿絵をもとに場面の順序・物語の大体をおさえ、登場人物の行動を中心にその時の気持ちを想像する。人物の行動の背景には、それを引き起こす思いや考えがある。登場人物の気持ちを考える時には、行動に着目し挿絵にある登場人物の表情を見て考えたり、これまでの自分の経験と結び付けたりして、くまのことうさぎのこの気持ちを想像できるようにしていきたい。

8 指導計画（全6時間）

	学習活動	教師の支援と手立て	評価の観点・方法
第一次	<p>①題名「かいがら」から思いつくことや実際にあった貝殻の思い出を話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝殻に触れる。 ・文章を読み、登場人物を確認する。 	<p>①貝殻拾いが楽しいことや、貝殻がきれいなことを共有しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が出てくる物語なのかを捉えさせる。 	<p>○音読し、登場人物が誰なのかを理解している。【読む】</p>
第二次	<p>②前時の学習を振り返り第一場面を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまのことうさぎのこ、どちらのセリフかわかるように印をつける。 ・「ああ、ぼくと一緒だ。」と言っていた時のくまのこの気持ちを想像し、会話の続きを考えワークシートに記入し、発表する。 <p>③くまのこが貝殻をもって帰り、一生懸命に考えたことを想像し、読み取ったことを交流する。</p>	<p>②くまのことうさぎのこのセリフがわかるように印を書くよう促す。この時に手本を黒板に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまのこが貝殻を見せた日の場面であることを確認する。 ・事前に作成しているワークシートを配り、想像し考えさせる。 ・くまのこの気持ちや考えたことが想像しにくい児童には、自分の一番のお気に入り友達にあげられるかを考えさせる。 	<p>○くまのことうさぎのこどちらのセリフなのかを理解している。【読む】</p> <p>○ワークシートにくまのこの気持ちを想像し、発表できる。【話す】</p> <p>○ほかの児童の発表をしっかりと聞いている。【聞く】</p>

第三次	<p>④第二場面をくまのことうさぎのこになったつもりで音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎのこの「ありがとう、本当にありがとう」と言った行動と気持ちについて考える。 ・「本当にありがとう」と言われくまのこの気持ちを考える。 <p>⑤貝殻の音を聞く二人の様子を想像して、くまのこやうさぎのこになったつもりで会話する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に貝殻の音を聞いたことのある児童にどんな音がしたのか聞く。 ・くまのことうさぎのこに言いたいことをワークシートに書き、発表する。 ・人物の思いを確かめて、本時の学習を振り返る。 	<p>④次の日とは何があった次の日なのかを確かめ、うさぎのこが貝殻を受け取った場面であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような話し方で読むとよいか、気持ちを想像しながら工夫させて音読させる。 ・「本当にありがとう」と言われたくまのこの気持ちを考え発表させる。 ・うさぎのこやくまのこの気持ちを想像することが難しい児童には、自分が大好きなものをもらったり、自分が大切なものをあげたりした経験を思い出させたりして、同化して考えさせる。 <p>⑤挿絵の表情からくまのことうさぎのこの気持ちを想像しながら音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまのことうさぎのこの心が通じ合う場面であったことを確認する。 ・「波の音が聞こえてきそう」から海の楽しさを感じられる場面であることを押さえる。 ・くまのことうさぎのこに伝えたいことをワークシートに記入させる。 	<p>○くまのこやうさぎのこの気持ちを想像して音読が出来る。【読む】</p> <p>○うさぎのことくまのこの気持ちを自分と置き換えることが出来たり、想像したりできる。【読む】</p> <p>○ほかの児童の考えを聞き共感する。【聞く】</p> <p>○伝えたいことを自分の言葉で書くことが出来る【書く】</p>
第四次	<p>⑥教科書121ページから一つ児童に絵本を選んでもらい読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞いた物語の感想を発表する。 	<p>⑥教科書121ページから一つ本を選び、登場人物の気持ちを想像し考えながら読み聞かせをし、感想を発表する。</p>	<p>○絵本を読み、自分と置き換えたりした発言が出来ている。</p>

9 本時の目標

最後の場面の人物の気持ちを想像して考え、くまのことうさぎのこに伝えたいことを書くことが出来る。

10 本時の学習

	学習活動	教師の支援と手立て	評価の観点・方法
5分	○前回の授業を思い出し、第二場面を音読する。一回目は一斉読みをし、二回目はクマのことうさぎの子に分かれて気持ちを考えながら音読をする。	○前回の授業で「本当にありがとう」と言われたくまのこの気持ちを考えたことを振り返る。それを踏まえたうえで音読をする。	・登場人物の気持ちになりきり、音読が出来ているか。【読む】
10分	○「波の音が聞こえてきそう」に対してどういった音が聞こえているのか想像し、発表する。 ・波の音がした ・ザーザー言っていた ・優しい音がした 等	○教科書では波の音と書いてあるがくまのことうさぎのこにはほかにどのような音が聞こえたか質問をする。 ・難しい児童は挿絵を見て想像し、考える。	・貝殻の音に興味・関心を持ち、くまのことうさぎの子の気持ちになる。【関心】
15分	○「にっこりしました」と挿絵からくまのことうさぎのこがどのような気持ちか考え、発表する。 ・嬉しい気持ち ・楽しい気持ち ・ほっこりしている気持ち	○登場人物の気持ちを文章や挿絵、想像から考えさせる。	・登場人物の気持ちを想像し、発表出来ている。【関心・話す】
20分	○物語全体を通してくまのことうさぎのこに言ってあげたい、伝えてあげたいことをワークシートに記入する。	○事前にワークシートを用意し、記入させる。「二人ともとっても楽しそうですね、二人にどんなことを言ってあげたいですか？」	・くまのことうさぎのこに伝えたいことを自分の言葉で考えかけている。【表現・書く】
30分	○ワークシートに記入したことを発表する。	・伝えたいことが思い浮かばない児童には、挿絵を指示して、それぞれの場面でどう思ったのかを聞いて感想を引き出し、くまの子や	

40分	○人物の思いを確かめて学習を振り返る。	<p>うさぎの子への思いとして書けるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入したことをみんなの前で発表する。 <p>○児童の発表に対してや、5時間を通しての感想を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活に置き換え、友達を思いやることで自分も相手も幸せな気持ちになることに気づく。【関心・聞く】
-----	---------------------	---	---